

アルオープンに向けて：リニューアルで国際平和ミュージアムはどうなるのか？どうなりたいのか？」というテーマでお話をしていきます。今回は「奮闘記 教員編」でしたが、今回は「国際平和ミュージアム・リニューアル奮闘記 学芸員・スタッフ編」ということでお話をさせていただきたいと思います。

お話の順番ですが、まずは田島さんから、見どころについてお話をさせていただいて、その後、田嶋さん、谷口さん、大月さんの順番で、学芸員の皆さんが、それぞれどのようなやり方で展示を考えていったのかについてお話をさせていただきたいと思います。この4名の学芸員、スタッフのほうから話がいった後に、ちょっと登壇者間でディスカッションをしたと思います。

今回は「教員編」ということで先生方にいろいろしゃべっていただいたんですが、大学の教員は授業の持ち時間が90分なので、べらべらと何でもしゃべります。しかし、今回はスタッフ、そして学芸員なので、あまりこういった場でお話しするのは慣れていないという方も多いですね。とはいえ、入念に資料も準備しておりますので、皆さん、ぜひ楽しんで聞いていただければいいかなと思います。それでは、田島さん、よろしくお願いいたします。

## 平和教育、社会教育との接続を可能とする「場」を実現するために…

田島 募

### 1. はじめに

私からまずは施設の見どころと伺いますか、この後、学芸員の皆さんが話すこととはちょっと違うポイントで話をしていきたいなと思っています。

リニューアル後のミュージアムですが、先ほども市井先生から、少しコンセプトなどをご紹介いただいたかと思いますが、リニューアルと言え、どうしてもそこに込められたコンセプトや展示されている情報に目がいくと思うのですけれども、私としてはぜひ建物、場やスペース、いわゆる「ハコ」とし

## 【リニューアル奮闘記 学芸員・スタッフ編】

8月26日実施

市井：今日も、「国際平和ミュージアム・リニュー

ての役割を持ったミュージアムについても注目してもらいたいなというふうに思っておりますので、そのあたりを中心にお話をしていこうと思っております。

ミュージアムは大学内の施設ということになっていきますので、だからこそ高い水準での議論を踏まえた展示やコンセプトがあるわけですが、それが大学の中だけで終わるのではなくて、いろんな人たちに関わって互いに交流しながら学んでいく、要は平和教育、社会教育との接続の「場」をつくっていくには何が備わっている必要があるのかなということを考えながら、施設について考えていきました。

## 2. 「場」「ハコ」としての注目ポイント

今回は4つのキーワードを基に説明します。

一つ目は、受付機能の統合。二つ目は、立命館平和教育との接続及び社会教育との接続の「場」をどうするのか。三つ目は21世紀の需要に対応したユニバーサル・デザイン。四つ目は、旧展示室における課題解決に向けてということで、4つのキーワード—受付機能の統合、接続の「場」をどうするのか、ユニバーサル・デザイン、課題解決に向けて—という観点から「場」、いわゆる「ハコ」についてご紹介をしたいなと思います。

まずは、各階の全体図を見ていただきます。これから皆さんにお見せする写真などは最新のものになっています。まずは今回新しくなった1階になります。正面入口から入って総合受付を通過していただいで展示室に行くという流れになっています。

2階については、1階にあった国際平和ミュージアムメディア資料室が2階に移動するなど、大きな変更になっています。収蔵庫も地階から2階に移動しました。

次は地階になります。大きく分けて年表展示、テーマ展示、問いかけひろばという形でエリア分けがされています。この地階展示室については、また後ほど学芸員からお話があるかなというふうに思います。

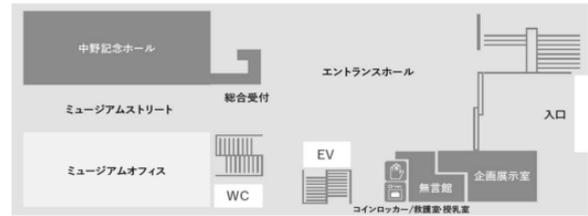


図1 1階



図2 2階

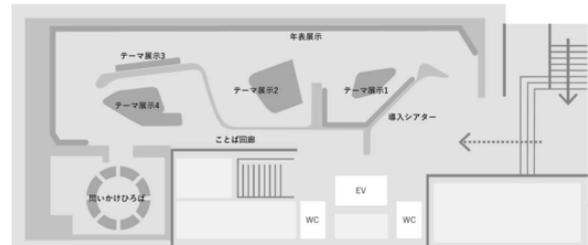


図3 地階

## 3. 受付機能の統合

それでは、早速、キーワードについて話をしたいと思います。

まずは「受付機能の統合」ということで、総合受付を設置しました。来館されたら、まず必ず受付を通過していくわけですが、リニューアル前というのは、地階、1階、2階と受付が3つも存在していて、なかなか分かりにくい構造になっていました。リニューアル後は一つに統合して、正面入口より来館後すぐに目に入る場所に総合受付を設置しました。ちょっとしたこぼれ話として、この総合受付の形状だとか機能、どこに設置するかというのは、かなり熟考したうえで、さらに設計会社の方々や建築会社の方々にもかなり相談、知恵をお借りして、現在の場所や形状にしたということがあります。

またエントランスホールですが、壁面の火の鳥はもちろん健在です。また、この火の鳥は30年間積もっていたほこりもきれいにさせていただいて、新品同様の形になっていますので、ぜひこちらのほうも見ていただければなというふうに思います。ほこり

がなくなったことで、以前見ていただいた色合いと少し違うかもしれません。



写真1 エントランスホール

#### 4. 接続を行う場として

次に、平和教育、社会教育との接続を行う場ということで、2階にありますけれども、新たにピースコモンズを設置しました。展示を見る前、見た後も話合ができますし、先ほど市井先生からも説明がありました主体的な学習につなげることのできるような学びをここで行うこともできます。さらに、来館者同士の交流なども可能になっています。

また、国際平和メディア資料室、先ほど1階から2階に移りましたと話をしましたけれども、こちらにおいてある本もこのピースコモンズで閲覧できるような環境として利用いただけるようになっています。



写真2 ピースコモンズ

接続を行う場ということ言えば、もう一つ、無言館京都館や企画展示室、こちらも主体的に学ぶことを可能にする場をつくるという意味では同様で、この場に身を置いていただくことによって、来館者一人一人がそれぞれの感性の中でその人にとっての課題を持ち帰ってもらえるような設備やデザイン、あとはコンセプトに沿った「場」の雰囲気づくりな

んかも意識して作っています。無言館京都館や企画展示室の場所も以前は2階にあったのですが、リニューアルにより、1階の正面玄関の近くに設置する形になっています。

ここでもちょっとしたこぼれ話を少ししておく、この無言館京都館、室内が真っ黒な設えとなっています。これは無言館京都館のコンセプトや、雰囲気づくりということで黒くしていますけれども、実はこの黒い壁の色を出すというのはなかなか難しく、今の黒い色を出すまでに、それこそ建築関係者の方々に大変ご苦労をいただいたということもあります。こういった場の雰囲気も含めて黒色の壁なども見ていただくと、コンセプトや雰囲気づくりと言った違った視点でも見ていただけるのではないかと思います。



写真3 無言館京都館

#### 5. ユニバーサル・デザインを追求

また、ユニバーサル・デザインという切り口から少し見ていただきたいと思います。ミュージアムには大学生はもちろん、高齢者の方から小中学生など様々な方々が来館されます。そういった方々が安心して見学できる、学びを得ることができる、ということを感じられるようなミュージアムとするために、リニューアルではユニバーサル・デザインもかなり重視をしました。展示室への入り口は、火の鳥の下から入っていただく形になりますが、リニューアル前は地下の常設展示につながる階段というのはかなり急で、下りるのも上るのも大変苦労したということを来館者の方からご意見をいただいていた。そのこともあり、今回かなり緩やかな階段に付け替えをしました。階段に関しては、途中で中休みというんですか、そういったところを設けることによ

て、階段を緩やかにして、下りやすく、上りやすく変更させていただきました。



写真4 展示室に続く大階段

さらにもう一つ、ユニバーサル・デザインの一つとして、新たに救護室・授乳室というものも設置しました。いろんな方々が来られるということで言いますと、先ほども少し説明しましたように、小中学生、これは団体で来館される方の大体7割近くにあたるのですけれども、来館されるまでに体調を崩される方も少なからずいらっしゃいました。体調を崩された方々も新設した救護室で休んでいただけるというようなことも含めて、安心して見学・利用いただけるように新設しました。

あと、トイレも改装いたしました。以前のミュージアムのトイレは学内でも古いほうから数えたほうが早いというぐらい、古いトイレだったのですけれども、現時点では恐らく学内で一番新しいトイレになったのではないかと、そして来館者のみなさまには大変使いやすくなったのではないかと思います。



写真5 救護室・授乳室

## 6. 課題解決に向けて

4つ目、課題解決ということで言いますと、やはり旧展示室の課題解決ということで、以前は地階と2階とに常設展示が分かれていましたけれども、地階に統合しました。この後、学芸員から詳しく、

「奮闘記」と共にいろいろご紹介があると思いますので、今回は地階の様子のみ少しご紹介をさせていただきます。画像だけということになりますけれども、ご紹介させていただきます。こちらは年表展示の様子ですね。かなり奥行きもあって、ダイナミックなつくりになっています。



写真6 年表展示

次がテーマ展示ですけれども、テーマ展示、先ほどテーマ展示1、2、3、4という形で紹介をしました。それぞれのテーマに沿って展示がされています。



写真7 テーマ展示4

また、問いかけひろばということで、自分の思いとか考え方をアウトプットできるような仕組みをこちらのほうで用意をさせていただいています。ここまでは、たくさんの情報や資料などをインプットしてきたと思いますが、問いかけひろばでは、インプットしたものを基に、自分なりの考え方をアウトプットしたり、自分の考えや他の人の考えを共有したりできる空間となっています。ここでも少しこぼれ話として話をしておきますけれども、新しくなった常設展示を来館されて見ていただきますと、すぐく曲線的なデザインが多くあることに気づかれるかなと思います。その一体的な曲線、丸みのある部分、これは機械ではなく人の手で作業されています。制作にはかなり苦勞されたということをお聞きしますので、そのあたりも見ていただくと、ああ、こ

ういう丸みは機械じゃなくて人の手がつくったのか  
みたいなこと、いわゆる展示物だけではなくて、  
展示物をいかす構造をどのように制作したかも知っ  
ていただければなというふうに思います。



写真8 問いかけひろば

もう一つ、課題解決ということで言いますと、  
ミュージアムは西側からも入館することができます  
けれども、以前はとても来館された方が入ることが  
できるような雰囲気ではない通用口のような入り口  
でした。リニューアルでは西側の入り口からも入り  
口であると認識してアプローチできるように、玄関  
らしく間口も大きく変更させていただきました。西  
側入り口から入りますと、ミュージアムストリート  
という名称の通路が見えます。そこには早崎治さん  
の作品でありモノクローム写真では世界最大級の  
「ノルマンディー地方のポプラ並木」が飾られるな  
ど、展示室に入るための気持ちがぐっと整えられる  
ような通路となっています。



写真9 ミュージアムストリート

最後に収蔵庫です。こちらが積年の課題でした。  
以前は地下にあって、収蔵関係も湿気がひどい環境  
ということも含めて、収蔵物の環境管理にかなり苦  
労されているということを学芸員から聞いていまし

た。今回のリニューアルでは2階に移動したとい  
うことで、貴重な資料を健全に保管して、資料の拡  
充にも対応できるように変更させていただきました。

## 7. おわりに

番外編ということで少しご紹介をさしあげます。  
皆さん、この写真を見て、何かすぐ目につくような  
ものってありますか。これは設計を担当された方の  
こだわりということで、紹介をさせていただきます  
が、この写真を見て、ぱっと目につくのが、光の線  
かなというふうに思います。これは過去の歴史を振  
り返り、今をどのように考え、後世にどのように伝  
えていくのか、先ほど市井先生よりコンセプトをお  
話されましたけれども、そのようなことも踏まえて  
学ぶスペースとして光で空間をつなぎ、時間軸とス  
ペースの連続性を表現させていただきました。



写真10 ピースコモンズ 光の線

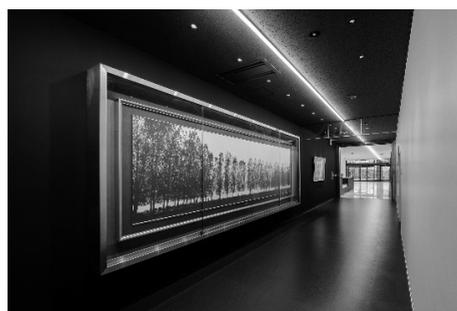


写真11 ミュージアムストリート 光の線

今回、4つのキーワードからリニューアルしたい  
いわゆる「ハコ」としてのミュージアムを紹介させて  
いただきました。

実際に来館していただき、館中に入っていたい  
で、今回説明差し上げたことも含めて場を感じて  
いただければと思います。